

●車椅子の乗客が、JR他社で乗車された場合、降車時の対応を速やかにするため、すぐに連絡ができる体制が求められる。

●信号業務の見直しを。

●大阪鉄道病院での、最大3万円減収となった給与体系の見直しを。

●部品が製造されていない車両の使用に疑問。

●被管理総括業務手当の新設を。

●重大インシデント以降、新幹線の車両点検による運転見合せが頻発。その対応に伴う関係部門への膨大な業務量への対策を。

●自宅待機も超勤扱いに。

●保線区新採総合職の列車見張り員養成時期の検討を。

●運転適性検査の受検環境の改善を。

●クレペリン検査について、車掌試験の時に合格し、運転士試験の際に再度受験は疑問。

●3セク会社からJR西日本に復帰の際に、新規で医学適性検査と運転適性検査を受ける負担が大きくなり、考え「新規ではなく「継続」として扱っていただきたい。

●育児休暇明けの女性社員が行う業務の一部で、移動時間が大半を占め、実質業務時間が2時間半程しかない。

いものがある。今一度労働環境の精査をお願いする。

●瑞風の制服について、クリーニング代の個人負担が大きくなり、手当を検討していただきたい。

●瑞風の乗務員は、指定のポーチに入らない携帯電話もあるため、対応可能なものにしてもらいたい。

●工務関係の職場では、異常時の緊急対応や、数ある規程の遵守に伴うチェックリスト等の業務量の増加により、要員のあり方が実態と合っていないと考える。

●触防改正により、線閉工事多数輻輳し、夜間作業

の実施が難しく、競合調整に多大な労力を費やす。

●エリア線閉区間内で、現示試験が行えるよう、ルールの見直しを。

●ヒューマンエラー非懲戒の導入から2年。今後、提言に変更や追加があるのか。

●L層の登用にNSは必要なのか。納得のいく回答を。

●指令体制の強化に伴う車両保守業務経験者の配置、「車両保守担当の即応体制整備」や、今後の「車両所リニューアル」「予備車増備」が目的ではなく、「新幹線の安全安定輸送」の手段であることを認識し、真に実

効性のある対策となるよう、会社と議論をお願いしたい。

●広島病院では分娩が休止となり、モチベーションの低下が発生し、小児科に影響が及ぶことで億単位の減収が予測される。医師の確保に努めるので、お力添えを願う。

●看護師や麻酔科医も不足している。新人看護師の離職が3割におよび、離職を防ぐ取り組みにお力添えを願う。

●40歳代で基本給が頭打ちとなる号俸表はありえない。モチベーションを保つためにも見直しを要求する。

●先日の豪雨災害時に、家

族と連絡が取れなくなった社員がいた。JR西日本独自の災害用伝言板のようなアプリを開発して頂きたい。

●各種手当を含めた見直しにより、年収単位で減額となる組合員が出る可能性がある。どのように交渉を進めるのか教えて頂きたい。

●小集団、発表会について、一部の社員だけの取り組みになっていないか。CSフエスティバルや区報発行は本当に必要な取り組みなのか。無駄な超勤になっていないか。精査頂きたい。

●介助を円滑に対応するために、介助が必要なお客様に、予め駅へ連絡をしていただくよう、声掛けをする等、HP以外の方法で周知していただきたい。

●機器設定等の、ワンマン列車の乗務員の業務が増えているにも関わらず、折り返し時が見直されていない。検討をお願いする。

●本部答弁(第2小委員会)

飯田営業部会長

◆新型車発機の課題は認識。対策を考えていきたい。

◆ワンマン導入は是としていっているが、運賃は脱は許せない。

◆駅で働く契約社員の採用が難しい。営業部でもしっかり対応していきたい。

◆出発合図が変更されたのは、車掌の安全確保の観点から。しっかり対応したい。

禪野賃金対策部会

◆第三者加害について、弁護士にかかる費用は、ルール上、会社は面倒をみない。

◆一方で、相手方との示談交渉は、勤務時間に設けることができる。ただし、金銭上の補助はない。

◆春闘等で声を上げていた。JR西労組の顧問弁護士にも相談して

いただきたい。

◆JR採用のシニア社員の給与は、93%で頭打ちとなっている。残り5年、春闘でも議論したい。

◆病院の夜間看護手当については、引続き改善に向けて議論していく。

◆不妊治療を受けている組合員は約1割。費用、制度両面で議論を継続していく。

◆退職金は、勤続37年で、55歳で頭打ち。議論をさせていただきます。

大石運輸部会長

◆新幹線の引き継ぎは、会社協議という難しい面もあるが、交渉の場で話していきたい。

◆新型車両の投入時には、ユーザーの意見を聞いている。過度のユーザー本位には、注意したい。

◆子供が成長すると、学校や地域での親の役割が増える。

日教勤務制度の小学校6年までの拡大について、機

会あることに伝えていきたい。

◆獣害対策について、車両の強度を増す等の対策を、会社にしつかりと提言する。

◆乗務員のGPSなど携行品増加は時代に逆行している。

◆大規模災害の際の、乗務員の運用のあり方について、ルール・正解はないと思っている。大きな災害なので、考え方を整理することが大切だと思う。

◆まずはお客様の安全が第一。そして乗務員の安全。現場の私たちが責任を持って、止めることのできる環境作りが前提となる。

◆出向社員の医適について、出向者が滞ることがないように関係箇所にしつかり働きかけたい。

◆車両系の女性設備について、6月30日に、白壁部長が入り、女性の働き方について意見を集約した。驚い

たのが、博多も、吹田も、「トイレがない」といったレベルの課題であったことである。

米村特別執行委員(新幹線協議会事務局長)

◆在来から新幹線の工務への運用は減少傾向にある。数年前の不幸な組合員を繰り返してはならない。

◆殺傷事件以降の車内放送や巡回は8月までと聞いている。警備は、専門の方にお願いしたかったが、警備会社の調整がつかなく、一定乗務していただいた。人を付けずになんとかカバーできるようなシステムや技術の導入が課題である。

◆今も支援物資を持って、糸崎の寮に行っている組合員がいると聞いている。

◆重大インシデント後、車両所で働く組合員が苦勞さ

れているのは、認識している。足りない部分は、今後検証していきたい。

◆九州地区は、知恵を使えば労働力を確保できると考えている。

◆新組織の準備室長は交代

したが、その主立ったメンバーは残っているので、組織の連続性は保たれている。業務に支障があれば、早急に改善を求めていく。

城副委員長

◆現在、JR西日本に、契約社員は約2000人いる。そのうち約1000人が駅の営業管轄に所属している。アーバンに600名、ローカルといわれる地方の駅に400名が勤務している。

◆工務所では、難易度の高いプロジェクトが控えており、より一層、働き方改革を進めていかなければ、長時間労働が解決されないと考えている。業務の棚卸をして見直す必要がある。ご支援を賜りたい。

第2小委員会 発言者

